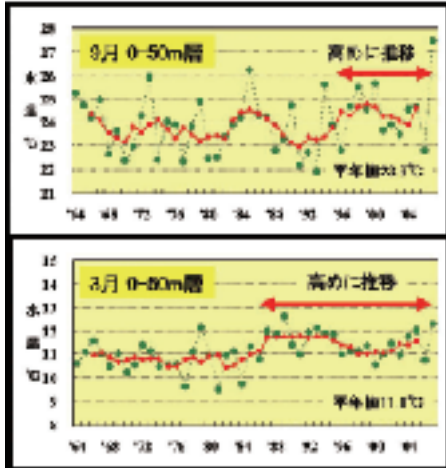
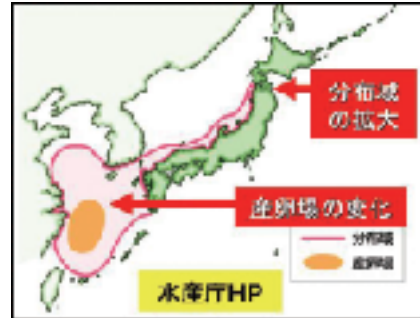


# あむ地球温暖化

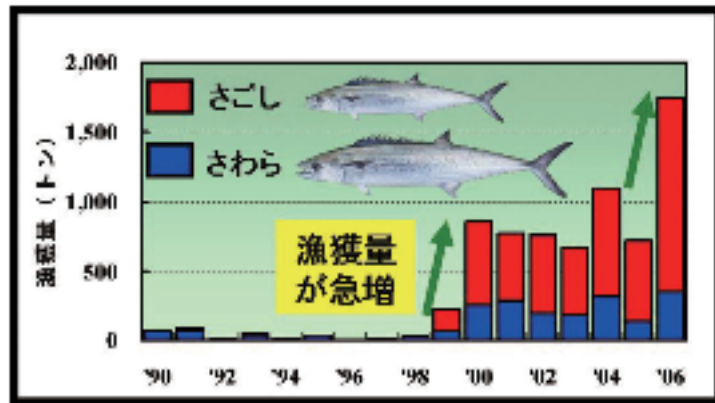
## 減少するブリ 増加するサワラ、 南方系の魚類も！



京都府沿岸水温



さわら分布域



京都府さわら漁獲量

### くわしい説明 ~大人の方向け~

日本海の水温は、1990年代以降高めに推移しています。

高水温の影響で、日本海北部の海域が暖水性の回遊魚であるブリの生息に適した環境になり、若狭湾より北方の海域に越冬場が形成されるようになりました。このため、京都府沿岸の定置網では寒ブリがあまり獲れなくなりました。

一方、サワラについては、1999年以降、日本海における漁獲量が急増しています。昨年の漁獲量は京都府が全国一です。東シナ海における産卵期の水温が上昇したため、産卵場が北へ移動し、対馬海峡を通過して日本海へ流入する量が増加したことが一因と考えられます。

海水温の上昇に伴い、京都府の沿岸ではイトヒキアジやオキアジなどの南方系魚類が頻繁に出現しています。また、舞鶴湾や宮津湾などでは、南方系大型種であるトゲシャコが繁殖し、在来種であるシャコが減少しました。冬の水温が高いので、本来なら死滅するハリセンボンが生き残り、漁業被害も生じています。エチゼンクラゲの大量出現も漁業に大きな影響を与えています。なぜこのクラゲの大量発生が頻発化するのか、温暖化との関係は不明ですが、発生域である東シナ海的环境が変化したことが原因であろうと思われます。

(京都府立海洋センター 和田洋蔵氏)